

タシロマメ

ぜつめつきぐ
絶滅危惧IA

か めい
科名 マメ

べつ めい
別名 シロヨナ

がくめい
学名 *Intsia bijuga*



く ぶん
区 分 もくほんるい
木本類

ぶん ぶ
分 布 いろおもてじま いしがきじま
西表島、石垣島

は かたち
葉 の 形 だえんけい えんけい
楕円形、円形

は ぶち
葉 の 縁 ぜんえん
全縁

は さき
葉 の 先 どんけい
鈍形

は しゅるい
葉 の 種類 ぐうすうじょうふくよう
偶数羽状複葉

は つきかた
葉 の 付方 ごせい
互生

は きぶ
葉 の 基部 えんけい
円形

み しゅるい
実 の 種類 とうか
豆果

はな がくいろ
花・萼色 しろいろ あわ べにいろ
白色、淡い紅色

せい
めい
明
説
かいがん かこうちか ていち は たか ぐらい じょうりよく こうぼく は ぐうすうじょうふくよう
海岸や河口近くの低地に生え、高さ15m位になる常緑の高木です。葉は偶数羽状複葉
で小葉は4枚、薄い革質で光沢があります。花は白または淡い紅色で枝先につきます。材が
堅くシロアリに強いことから建築材などとして利用されていましたが、明治初期までに激減
しました。